

第2章 試験・検査概況

大 気 係

大気係の業務は、大気中の特定粉じん、二酸化窒素、降下ばいじんの調査、有害大気汚染物質のモニタリング調査、微小粒子状物質成分分析調査、酸性雨調査、放射能の測定（原子力規制庁委託）、騒音の環境調査等である。

令和5年度に実施した業務内容の概要は以下のとおりである。なお、自排櫃原局の廃止に伴い令和6年1月より、測定地点の櫃原市を桜井市に変更した。

1. 大気環境

大気汚染物質による大気環境の状況を把握するために以下の調査を実施した。令和5年度に実施した大気汚染関係の検体数及び項目数を表1、表2に示した。

1) 特定粉じん(アスベスト)の調査

(1) 環境調査

大気中の特定粉じんの環境測定を、住宅地域(天理市)、商業地域(大和高田市)、工業地域(大和郡山市)、旧アスベスト製品取扱工場周辺(王寺町、斑鳩町)の計5箇所で行った(60検体)。

(2) 発生源調査

解体作業等の現場3箇所で行った(31検体)。

2) 大気汚染状況(簡易法による二酸化窒素(NO₂)等)の調査

大気汚染の常時監視を補完するための調査で、トリエタノールアミン円筒ろ紙法(TEA法)によるNO₂等の測定を、一般環境(天理市、桜井市)と沿道(櫃原市)の3地点について毎月行った(33検体)。(櫃原市の測定は、令和5年12月まで)

3) 大気汚染状況(降下ばいじん量)の調査

桜井市において、簡易デポジットゲージ法により、降下ばいじん量の測定を毎月行った(12検体)。

4) 有害大気汚染物質調査

(1) 優先取組物質【VOCs】の測定

テトラクロロエチレン、トリクロロエチレン、ベンゼン等の11物質を、一般環境(天理市)、沿道(櫃原市)、発生源周辺(大和郡山市)の3地点でキャニスター採取、GC/MS法で毎月測定した(84検体)。

また、酸化エチレンを一般環境(天理市)、沿道(櫃原市)の2地点で捕集管採取、GC/MS法で毎月測定した(72検体)。

(2) 優先取組物質【アルデヒド類】の測定

ホルムアルデヒド、アセトアルデヒドの2物質を一般環境(天理市)、沿道(櫃原市)の2地点で捕集管採取、HPLC法で毎月測定した(72検体)。

表1 令和5年度 大気汚染測定一覧表(検体数)

業務区分	測定内容	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
特定粉じん	アスベスト		15	0	0	15	0	0	15	4	17	15	5	5	91
	簡易法監視	NO ₂	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	2	2	33
降下ばいじん	ばいじん量		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
	VOC (11)		7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	84
有害大気汚染物質	酸化エチレン		6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	72
	アルデヒド (2)		6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	72
行政測定	水銀		7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	84
	金属 (5)		7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	84
	ベンゾ (α) ピレン		6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	72
	要監視項目	VOC (3)	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	72
微小粒子状物質	イオン (9)		0	58	0	0	58	0	0	58	0	0	58	0	232
	無機元素成分 (29)		0	58	0	0	58	0	0	58	0	0	58	0	232
	炭素成分 (8)		0	58	0	0	58	0	0	58	0	0	58	0	232
	質量濃度		0	42	0	0	42	0	0	42	0	0	42	0	168
酸性雨	イオン等 (11)		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
小	計		65	266	50	65	266	50	65	270	67	64	270	54	1,552
自主検査		0	29	3	48	71	15	33	86	65	48	24	155	577	
合計		65	295	53	113	337	65	98	356	132	112	294	209	2,129	

※有害大気汚染物質、要監視項目及び微小粒子状物質については、二重測定及びブランクを含む。

表 2 令和 5 年度 大気汚染測定一覧表(項目数)

業務区分	測定内容	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
特定粉じん	アスベスト		15	0	0	15	0	0	15	4	17	15	5	5	91
	簡易法監視	NO ₂	3	3	3	3	2	3	3	3	3	2	2	2	32
降下ばいじん	ばいじん量		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
	VOC (11)		77	77	77	77	77	77	77	77	77	77	77	77	924
有害大気汚染物質	酸化エチレン		6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	72
	アルデヒド (2)		12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	144
	水銀		7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	84
	金属 (5)		35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	420
行政測定	ベンゾ (a) ピレン		6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	72
	要監視項目	VOC (3)	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	216
微小粒子状物質	イオン (9)		0	522	0	0	522	0	0	522	0	0	522	0	2,088
	無機元素成分 (29)		0	1,682	0	0	1,682	0	0	1,682	0	0	1,682	0	6,728
	炭素成分 (8)		0	464	0	0	464	0	0	464	0	0	464	0	1,856
	質量濃度		0	42	0	0	42	0	0	42	0	0	42	0	168
酸性雨	イオン等 (11)		11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	132
小計			191	2,886	176	191	2,885	176	191	2,890	193	190	2,890	180	13,039
自主検査			4,216	1,147	882	2,208	739	27	2,603	2,441	1,949	3,200	2,160	5,270	26,842
合計			4,407	4,033	1,058	2,399	3,624	203	2,794	5,331	2,142	3,390	5,050	5,450	39,881

VOC (11): アクリロニトリル, 塩化ビニルモノマー, クロロホルム, 1,2-ジクロロエタン, ジクロロメタン, テトラクロロエチレン
 トリクロロエチレン, 1,3-ブタジエン, ベンゼン, トルエン, 塩化メチル
 アルデヒド (2): ホルムアルデヒド, アセトアルデヒド
 金属 (5): ニッケル化合物, ヒ素及びその化合物, ベリリウム及びその化合物, マンガン及びその化合物, クロム及びその化合物
 VOC (3): キシレン類, 四塩化炭素, 1,1,1-トリクロロエタン
 イオン (9): SO₄²⁻, NO₃⁻, NO₂⁻, Cl⁻, NH₄⁺, Na⁺, K⁺, Ca²⁺, Mg²⁺
 無機元素成分 (29): Na, Al, K, Ca, Sc, Ti, V, Cr, Mn, Fe, Co, Ni, Cu, Zn, As, Se, Rb, Mo, Sb, Cs, Ba, La, Ce, Sm, Hf, W, Ta, Th, Pb
 炭素成分 (8): 有機炭素 (OC1, OC2, OC3, OC4) 元素状炭素 (EC1, EC2, EC3) 炭素補正值 (OCpyro)
 イオン等 (11): 降水量, pH, EC, Cl⁻, NO₃⁻, SO₄²⁻, NH₄⁺, Na⁺, K⁺, Ca²⁺, Mg²⁺

(3) 優先取組物質【水銀】の測定

一般環境 (天理市), 沿道 (橿原市), 発生源周辺 (大和郡山市) の 3 地点で捕集管捕集法 (アマルガム捕集管), ダブルアマルガム方式水銀測定装置で毎月測定した (84 検体).

(4) 優先取組物質【金属 5 物質】の測定

一般環境 (天理市), 沿道 (橿原市), 発生源周辺 (大和郡山市) の 3 地点でハイボリュームエアースンプラー採取, マイクロウェーブ加圧容器法で前処理の後, ICP/MS 法により, 毎月測定した (84 検体).

(5) 優先取組物質【ベンゾ(a)ピレン】の測定

一般環境 (天理市), 沿道 (橿原市) の 2 地点でハイボリュームエアースンプラー採取, 超音波抽出, HPLC 法で毎月測定した (72 検体).

5) 要監視項目の測定

一般環境 (天理市) 1 地点でキシレン類, 及びオゾン層破壊物質 (四塩化炭素, 1,1,1-トリクロロエタン) 計 3 項目をキャニスター採取, GC/MS 法で毎月測定した (72 検体).

6) 微小粒子状物質 (PM_{2.5}) の成分分析調査

一般環境 (天理局, 桜井局) 2 地点で成分分析調査を実施した. 調査日は令和 5 年 5 月, 8 月, 11 月, 令和 6 年 2 月の 4 季各 14 日間であった.

(1) イオン成分の測定

イオン成分 (SO₄²⁻, NO₃⁻, NO₂⁻, Cl⁻, NH₄⁺, Na⁺, K⁺, Ca²⁺, Mg²⁺) 合計 9 項目を測定した (232 検体).

(2) 無機元素成分の測定

無機元素成分 (Na, Al, K, Ca, Sc, Ti, V, Cr, Mn, Fe, Co, Ni, Cu, Zn, As, Se, Rb, Mo, Sb, Cs, Ba, La, Ce, Sm, Hf, W, Ta, Th, Pb) 合計 29 成分を測定した (232 検体).

(3) 炭素成分の測定

炭素成分 (有機炭素 OC1, OC2, OC3, OC4 元素状炭素 EC1, EC2, EC3 炭素補正值 OCpyro) 合計 8 成分を測定した (232 検体).

(4) 質量濃度の測定

質量濃度を測定した (168 検体).

7) 酸性雨調査

桜井市において降雨時自動開放型採取装置で採取した雨水について, 降水量, pH, 導電率, イオン成分濃度の測定を毎月行った (12 検体)

8) 化学物質環境汚染実態調査

環境省委託により, 一般環境 (天理局) 1 地点について, 大気試料採取等を実施した.

2. 放射能

原子力規制庁委託環境放射能水準調査事業として、降水、大気浮遊じん、降下物、蛇口水の放射性核種の分析及び空間放射線量率の測定については年間を通じて490検体の測定を行った。茶葉等の食品試料については8検体の測定を行った。各検体数および項目数については、表3、表4に示した。

また、原子力規制庁が実施した放射能分析確認調査に参加し、分析比較試料10検体の分析を行った。

3. 騒音・振動

(1)自動車騒音測定

道路沿道の自動車騒音について、2地点において24時間の騒音測定を行った。

(2)発生源周辺調査

事業場周辺の騒音・振動について、騒音、振動の測定はなかった。

(3)関係機関への騒音計、振動レベル計の貸出

市町村等関係機関に騒音計、振動レベル計等の貸出を行った(8件)。

4. 調査研究等

1) 調査研究

(1) 地方公共団体環境研究機関等と国立環境研究所とのⅡ型共同研究

「光化学オキシダント等の変動要因解析を通じた地域大気汚染対策提言の試み」

(2) 奈良県保健研究センター及び景観・環境総合センター調査研究

「奈良県における大気粉じん中の多元素測定と解析」(外部評価)

(3) 奈良県保健研究センター及び景観・環境総合センター研究発表会

「微小粒子状物質(PM_{2.5})中の有機マーカーの季節別・時間別挙動について」

「奈良県における大気粉じん中の多元素測定と解析」

2) 事業に係る技術等検討

事業に係る技術等検討として令和5年度は以下の課題について検討を行った。

(1) 奈良県における大気粉じん中の六価クロム測定法の検討 [上林政貴]

(2) 県内におけるPM_{2.5}の測定結果考察及び発生源解析について(R1~R3) [村上友規]

(3) 奈良県における光化学オキシダントの新指標による解析 [吉田実希]

(4) 県内大気中のホルムアルデヒド及びアセトアルデヒドの状況 [久保友佳子]

(5) 県内大気中のアルデヒド類及びBVOCの挙動について [久保友佳子]

表3 令和5年度 放射能測定一覧表(検体数)

業務区分	測定区分	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
行政測定	環境放射能		40	42	44	39	46	40	36	39	41	40	40	43	490
	食品放射能		0	0	2	1	1	1	0	1	2	0	0	0	8
	精度管理(その他)		0	0	1	2	2	4	0	0	1	0	0	0	10
	小計		40	42	47	42	49	45	36	40	44	40	40	43	508
	自主検査		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計		40	42	47	42	49	45	36	40	44	40	40	43	508

表4 令和5年度 放射能測定一覧表(項目数)

業務区分	測定区分	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
行政測定	環境放射能		42	44	48	45	48	44	38	41	45	42	42	47	526
	食品放射能		0	0	6	3	3	3	0	3	6	0	0	0	24
	精度管理(その他)		0	0	64	128	128	256	0	0	64	0	0	0	640
	小計		42	44	118	176	179	303	38	44	115	42	42	47	1,190
	自主検査		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計		42	44	118	176	179	303	38	44	115	42	42	47	1,190

水 質 係

水質係では、水質汚濁防止法及び廃棄物処理法に基づく行政検査のほか、県行政機関依頼の緊急的な水質検査及び景観・環境総合センター手数料条例に基づく各種の水質検査等を主な業務としている。

行政検査としては、公共用水域の水質常時監視、工場・事業場等の立入調査に伴う排水基準監視、地下水の水質常時監視、底質・土壌、ゴルフ場排水に関する水質検査、廃棄物処理法に基づく一般廃棄物・産業廃棄物施設関係の水質検査を行った。また、環境省から委託された化学物質環境汚染実態調査に関する検査を実施した。

令和5年度に実施した検査の区分ごとの概要は以下のとおりである。検体数及び項目数は、それぞれ表1及び表2に示した。

1. 行政検査

1) 河川水等の検査

(1) 公共用水域の水質監視

公共用水域の水質汚濁状況を常時監視するために、県が定めた「令和5年度公共用水域及び地下水の水質測定計画」に基づいて大和川水系、紀の川水系及び淀川水系の計72地点の水質検査を実施した。検査項目

は、一般項目として透視度等3項目、生活環境項目としてBOD等10項目、健康項目としてカドミウム等27項目、特殊項目としてクロム等6項目、その他項目として塩化物イオン等11項目、要監視項目としてクロロホルム等27項目の計84項目であった(416検体、6,690項目)。なお、水系別の検体数及び項目数を表3に示した。

(2) 行政河川水等の検査

上記の公共用水域の水質監視を除く河川水等の水質検査を実施した(230検体、1,563項目)。内訳を以下に記す。

① 産業廃棄物関係水質検査

産業廃棄物埋立処分施設等の周辺河川水について水質検査を実施した(37検体、539項目)。

② その他の水質検査

魚のへい死、事故等による緊急時検査、苦情処理等に関わる検査、及びその他の行政上必要な検査を実施した(193検体、1,024項目)。

2) 排水水等の検査

(1) 工場・事業場等立入調査

水質汚濁防止法及び県生活環境保全条例等により排水基準が適用される工場・事業場、有害物質を排出するおそれのある工場・事業場及び排出量50m³/日未満

表1 令和5年度 水質検査一覧表(検体数)

区分	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
河川水等	公共用水域	39	33	32	39	33	41	39	33	32	41	21	33	416
	行政検査 行政河川	54	56	12	21	9	6	17	8	18	11	15	3	230
	小計	93	89	44	60	42	47	56	41	50	52	36	36	646
	依頼検査 依頼河川	3	22	4	11	9	1	20	22	5	0	24	5	126
	自主検査 調査	30	225	25	66	259	20	122	79	279	64	148	75	1,392
	合計	126	336	73	137	310	68	198	142	334	116	208	116	2,164
排水水等	立入	3	9	14	9	10	16	8	20	8	12	11	2	122
	行政検査 行政放流水	3	12	7	2	12	3	4	11	1	2	16	0	73
	小計	6	21	21	11	22	19	12	31	9	14	27	2	195
	依頼検査 放流水	1	8	1	3	0	4	1	9	1	3	1	5	37
	自主検査 調査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	7	29	22	14	22	23	13	40	10	17	28	7	232
地下水	定期調査	0	0	0	7	9	9	10	0	0	0	0	0	35
	行政検査 行政地下水	0	7	3	0	16	0	18	8	11	0	6	0	69
	再調査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	自主検査 調査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	7	3	7	25	9	28	8	11	0	6	0	104	
底質・土壌等	行政検査	0	15	0	0	1	0	0	1	0	1	0	0	18
	自主検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	0	15	0	0	1	0	0	1	0	1	0	0	18
ゴルフ場排水	行政検査	0	0	0	0	0	11	0	0	0	0	0	0	11
	依頼検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	0	0	0	0	0	11	0	0	0	0	0	0	11
総計		133	387	98	158	358	111	239	191	355	134	242	123	2,529

表2 令和5年度 水質検査一覧表（項目数）

区分	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
河川水等	公共用水域	455	510	759	641	926	634	786	394	368	541	313	363	6,690
	行政検査 行政河川	294	379	78	198	57	33	119	149	67	85	95	9	1,563
	小計	749	889	837	839	983	667	905	543	435	626	408	372	8,253
	依頼検査 依頼河川	18	155	48	76	66	8	138	155	56	0	152	30	902
	自主検査 調査	30	618	443	459	654	437	519	493	670	456	517	443	5,739
合計	797	1,662	1,328	1,374	1,703	1,112	1,562	1,191	1,161	1,082	1,077	845	14,894	
排水水等	立入	21	50	84	59	72	97	48	120	42	71	59	12	735
	行政検査 行政放流水	32	228	170	10	102	62	42	91	12	21	156	0	926
	小計	53	278	254	69	174	159	90	211	54	92	215	12	1,661
	依頼検査 放流水	6	58	5	23	0	35	6	67	5	23	3	26	257
	自主検査 調査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	59	336	259	92	174	194	96	278	59	115	218	38	1,918	
地下水	定期調査	0	0	0	413	417	475	479	0	0	0	0	0	1,784
	行政検査 行政地下水	0	70	20	0	160	0	169	80	11	0	62	0	572
	再調査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	自主検査 調査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	70	20	413	577	475	648	80	11	0	62	0	2,356	
底質・土壌等	行政検査	0	256	0	0	13	0	0	13	0	13	0	0	295
	自主検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	0	256	0	0	13	0	0	13	0	13	0	0	295
ゴルフ場排水	行政検査	0	0	0	0	0	528	0	0	0	0	0	0	528
	依頼検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	0	0	0	0	0	528	0	0	0	0	0	0	528
総計	856	2,324	1,607	1,879	2,467	2,309	2,306	1,562	1,231	1,210	1,357	883	19,991	

表3 令和5年度 水系別水質検査検体数及び項目数

区分	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
大和川	検体数	36	16	16	36	16	18	36	16	16	37	17	17	277
	項目数	419	298	584	604	203	217	749	203	193	502	214	188	4,374
紀の川	検体数	3	4	14	3	4	14	3	4	14	3	4	14	84
	項目数	36	170	165	37	146	165	37	169	165	34	99	165	1,388
淀川	検体数	0	13	2	0	13	9	0	13	2	1	0	2	55
	項目数	0	42	10	0	577	252	0	22	10	5	0	10	928
新宮川	検体数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	項目数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	検体数	39	33	32	39	33	41	39	33	32	41	21	33	416
	項目数	455	510	759	641	926	634	786	394	368	541	313	363	6,690

の小規模事業場の排水等について水質検査を実施した（122 検体，735 項目）。

(2) 排水水等の行政検査

産業廃棄物埋立処分施設等からの排水について行政依頼による水質検査を実施した（73 検体，926 項目）。

3) 地下水の検査

地下水の水質状況を常時監視するために、県が定めた「令和5年度公共用水域及び地下水の水質測定計画」に基づく38地点の定期水質検査を実施した。検査項目は、健康項目としてカドミウム等27項目、要監視

項目及びその他項目として23項目であった（35 検体，1,784 項目）。

また、全国的に地下水汚染が問題になっていることを受け、本県において過去に基準超過が見られた地下水について行政上必要な検査を実施した（69 検体，572 項目）。

4) 底質・土壌等の検査

底質・土壌等についての成分等の検査を実施した（18 検体，295 項目）。

5) ゴルフ場排水の検査

ゴルフ場排水中の農薬検査を実施した (11 検体, 528 項目).

6) 化学物質環境汚染実態調査に関する検査(4 検体, 4 項目)

環境省委託により大和川本川の 1 地点について、底質 3 検体及び水質 1 検体の試料採取を実施し、うち水質 1 検体については酢酸 *n*-プロピル、*N,N*-ジエチル-3-メチルベンズアミド、シプロフロキサシン、*N'*-tert-ブチル-*N*-シクロプロピル-6-(メチルチオ)-1,3,5-トリアジン-2,4-ジアミンの分析を実施した。

2. 依頼検査

景観・環境総合センター手数料条例に基づき、手数料を徴収して以下の検査を実施した。

1) 河川水等の検査

市町村等からの依頼により水質検査を実施した (126 検体, 902 項目).

2) 排水水等の検査

一般廃棄物処理関連施設等からの依頼により排水の水質検査を実施した (37 検体, 257 項目).

3. 調査研究等

1) 調査研究

(1) 国立環境研究所とのⅡ型共同研究

①「災害時等における化学物質の網羅的簡易迅速測定法を活用した緊急調査プロトコルの開発」

医薬品を始めとする生活由来物質や無機化学物質による環境汚染リスクを解明するため、これらの化学物質を対象に国内をフィールドとした汚染実態、リスク評価を行う。令和 5 年度は河川中の化学物質群を選定するため、AIQS を用いて網羅分析を実施した。

②「河川プラスチックごみの排出実態把握と排出抑制対策に資する研究」

陸域から海域へ流出するプラスチックの分布実態を把握することが必要である。しかしながら、河川プラスチックごみの実態について調査・研究事例は少なく、国内河川における継続した調査を必要としている。令和 5 年度は、選定した地点でのプラスチックごみ実態把握調査を実施した。

③「多様な水環境の管理に対応した生物応答の活用に関する研究」

環境省では、現在の化学物質の個別規制では対応できない、未知物質や規制対象外の物質、さらには物質間の複合的な影響等も含めて評価する手法として、生物応答を利用した WET 手法の導入を検討している。

だるま橋における水生生物への影響について、ニセネコゼミジンコを用いるミジンコ繁殖試験法を実施し、本年報に掲載した。

(2) 行政上必要とされる課題研究

「大和川水系岡崎川の水質改善に関する検討」

令和 4 年度に引き続き、岡崎川の水質調査を行った。令和 5 年度は調査地点を増やすことで、原因となる地点の範囲が判明した。令和 4 年度と比較し、BOD 値が低値であったが全体的に流量が多かったことがその一因と考えられる。また、2 年間の調査で採水時に流末において水が茶褐色に濁り悪臭を放っているときがあり、時期により、何らかの異物が大量に混入している可能性が示唆された。令和 4 年度はその回数が多かった。そのため、環境基準達成のために環境用水利用のシミュレーションを行った結果、令和 5 年度は令和 4 年度と比較し、少ない水量の利用で環境基準を満たすことが判明した。

(3) 奈良県保健研究センター及び景観・環境総合センター調査研究

「大和川流域におけるマイクロプラスチックの環境実態調査」(外部評価)

河川 MPs について、県内大和川水系最下流域及び下水処理施設放流水を対象に環境実態調査を行った。結果、河川においては、他の国内河川と同程度の MPs が奈良県内河川でも存在していたが、採水時期によるばらつきが大きかった。一方、放流水においては、流量・MPs 個数密度ともに河川より小さく、形状割合・材質も河川と異なる傾向であるという知見を得た。

(4) 奈良県保健研究センター及び景観・環境総合センター研究発表会

「岡崎川の水質改善に関する検討について」

「異常水質原因物質特定事例について」

2) 事業に係る技術等検討

事業に係る技術等検討として令和 5 年度は以下の課題について検討を行った。

(1) AIQS を用いた網羅分析法の構築 [浦西洋輔]

(2) WET 法によるだるま橋の生物影響評価について [平井佐紀子]

(3) 大和川水系岡崎川の水質改善に関する検討 [北岡洋平]

(4) 大和川水系におけるマイクロプラスチック汚染の実態調査 [平山可奈子]

(5) 河川水の糞便性大腸菌に含まれる大腸菌の割合の変動について [平城均]